

概要

2011年【古典を読む-歴史と文学-】 「いま明かされる古代XIX」

第2回 - 井上内親王の生涯 - 齋王として、皇后として -

開講日時：11/26 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵒会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：東北福祉大学 客員教授

西 洋子(にし ようこ)先生

概要：奈良時代、聖武天皇の皇女として生まれながら、母を光明子とする阿倍内親王とは全く違う人生を送ることを余儀なくされ、死後は怨霊として恐れられ、祀られた井上内親王。彼女は、5歳で齋王に卜定され伊勢の地で大神宮に奉仕する日々を過ごし、28歳で帰京、35歳頃白壁王と結婚、彼の即位とともに、皇后に、息子他戸親王も皇太子になったものの、すぐに厭魅事件に巻き込まれて、母子ともに廃后、廃太子の憂き目に遭い、59歳で息子とともに死という人生を送る。彼女の人生に当時の政治情勢が大きく影響したと思われるが、当時の皇女一般が置かれた状況を踏まえつつ、渦中に置かれた彼女の心情と行動、天皇として父としての聖武の心情、政界を主導していた藤原氏の思惑を考えてみたい。また、整備中だった齋王制度についても付言する。